



# PREX NOW

No. 167

September  
2007

財団法人 太平洋人材交流センター  
Pacific Resource Exchange Center

## contents

page 1 ●ニュース&レポート 1

マレーシア商工会議所の要望を受けて

page 2 ●講師の声

ベトナムで経営者のあり方をテーマに議論白熱

page 3 ●ニュース&レポート 2

美しい水のための専門家同士の交流

page 4 ●ニュース&レポート 3

「多様」な情報が集合、互いに学ぶ集団研修

page 5 ●ひとこと

AOTSの進める国際交流

財団法人 海外技術者研修協会(AOTS)

理事(関西研修センター担当・館長兼務)

吉原秀男氏

page 6 ●PREXだより

事務局ニュース、コラム



われわれの使命は、  
常に開発途上国にとって  
有益な存在であり続けることです。



## ニュース&レポート ①

News & Report

### マレーシア商工会議所の要望を受けて [アセアン海外研修(マレーシア クアラルンプール)]

PREXは(財)海外技術者研修協会(AOTS)のスキームを利用して、社団法人関西経済連合会(関経連)のサポートを受け、アセアン海外研修を実施した。今回、マレーシア クアラルンプールにて、6月26日から6月28日まで3日間の日程で、半日の遠隔手法、残り2日半の対面形式を組み合わせて行った。テーマはTotal Quality Management(TQM)で、46名が非常に熱心に參加した。

本研修は、マレーシア商工会議所(NCCIM)からの要望を受けて実施したものである。特に今回は大きく二つの特徴を挙げることができる。

#### ■世界銀行のシステムも活用した遠隔プログラム

一つ目は、アセアン海外研修で初めて、世界銀行の遠隔研修システムを利用したことである。

世界銀行の安定したシステムを利用し、専任の技術スタッフに、事前の接続確認、本番の画面切り替え等をすべてお任せできたため、事前出張が必要なかった。

開講式は、大阪大学中之島センターとクアラルンプール会場を結び、日本サイドには

関経連・PREXの代表者が、現地サイドからはNCCIMの代表者が、それぞれ挨拶した。

そして東京の世界銀行から狩野博士が行った基調講演は、参加者にとってTQMの根幹を理解する有意義な機会となった。



遠隔の模様(マレーシア側)。狩野博士には東京の世界銀行から講義いただいた。



初日のグループディスカッションの様子を見て回る中村博士



マレーシアの企業経営幹部ら46名が参加した。

#### ■KJ法を活用し理解を深めた対面研修

特徴の二つ目は、KJ法を用いたグループディスカッションである。

現地に出張いただいた中村博士には、各講義の後半1時間ほどを使い、グループディスカッションを取り入れていただいた。

参加者を5グループに分け、この講義で何を学んだか、何を自社に導入したいか、導入する際の克服すべき課題は何か、克服するにはどんな対策が考えられるか、といった質問を投げかけていった。KJ法を体験するのが初めてという参加者ばかりであったため、KJ法を細かいステップに分けて説明し、また最初から全てのステップを取り入れずに、少しづつ慣れていくよう

工夫した。その結果、TQMについての講義・事例紹介をより深く理解し、TQMをいかに自社へ導入するかを考え、まとめることができた。さらにKJ法そのものを自社に取り入れたいという声も多く出た。今後の各社への導入成果に期待したい。

—国際交流部 コースリーダー 高山 真由子

#### お世話になった方々、企業・団体他 (講義・訪問順・敬称略)

東京理科大学 狩野紀昭名誉教授(狩野品質研究事務所 代表)、ナカムラ エンジニアリング サービス 中村秀夫代表、マレーシア生産性本部 エビ・ラヒム・ユソフ ベストプラクティスマネジメント局長



## ベトナムで経営者のあり方をテーマに議論白熱 [ベトナム海外研修「経営品質向上」]

(財)海外技術者研修協会(AOTS)のスキームを利用し、ベトナムのダナン市およびホーチミン市で、中小企業の経営幹部等を対象にセミナーを実施した。これまでベトナムでは、会計制度・日本市場参入・商品ディスプレイなどといったテーマで実施してきているが、今年度は企業経営を変革する能力を身につけることを目標に「経営品質向上」をテーマとした。

本研修の講師である、株式会社あきない総合研究所の吉田雅紀さんから寄稿いただいた。



吉田 雅紀 氏

株式会社  
あきない総合研究所  
代表取締役

Xin Chao ! あきない総合研究所の吉田と申します。

ベトナムの人はまじめですね。そして、おとなしい。日本人に似ているかも? 器用だし、心遣いも日本に似たものがあります。2回目の訪問ですが、すっかりファンになってしましました。何と言ってもベトナムは食べ物がおいしいです。(笑)

### ■セミナー受講者の「理解度」を図るには…

セミナーの話を逐次通訳。毎度のこと

ですが、難しいですね。セミナーは受講者の「理解度」やら「腑に落ちよう」を図りながら進めるので、どうしてもアドリブが多くなります。それらを、どう訳されたか分からないので、盲目の剣士「武士の一分」ではないですが、プロの度量が試される時です。

僕は受講生のリアクションを見ながら、理解度を測る為になるべく多くの質問をします。そして、ここはという所では日本語をホワイトボードに書いて、その下にベトナム語、その下に英語で訳を入れて説明します。

### ■ベトナムで初めてKJ法

セミナーの構成は参加型に徹しました。KJ法を使ったり、ディスカッションを沢山入れました。僕にとっての海外初KJ法は予

想以上にうまく行ったのでびっくりです。

そして、僕自身が学びました。受講生からも教えられることや僕の中での気づきもあって一番学んだのは僕のような気がします。

現地のみなさんにはあれこれお世話になりました。ありがとうございました。そして、PREXの三浦さん、心から感謝です。ダナンからホーチミンの移動の時にパスポートをホテルに忘れるという素人みたいなミスをしちゃいました。三浦さんの対応は「沈着冷静、少しも慌てず…」助かりました。三浦さんは細いけど、ほんと、頼りになります。(笑)

最後に、このような機会をいただいたPREXのみなさん、ありがとうございました。



熱心に講義を聞くダナン市の研修参加者ら40名。



グループ討議の結果を3分間で発表する。  
これがなかなか難しい。



ダナン市で、吉田講師の質問に手を挙げて答える参加者ら。



参加者一人ひとりに修了書が手渡された。



ホーチミン市では、ベトナム商工会議所ホーチミン支部の協力を得てセミナーは大盛況。企業経営者ら55名が参加した。



KJ法：グループに分かれて討議するホーチミン市の研修参加者。白熱した討議となった。

### ベトナム海外研修「経営品質向上」

- ◎実施期間 2007.5/30~6/1 ダナン市、  
2007.6/4~6 ホーチミン市
- ◎研修参加者 ダナン市40名、ホーチミン市55名
- ◎関係機関 財団法人 海外技術者研修協会(AOTS)、ベトナム商工会議所ダナン支部・ホーチミン支部
- ◎講 師 株式会社あきない総合研究所 代表取締役 吉田雅紀氏
- ◎内 容 経営品質向上の重要性、経営者のあり方、リーダーシップ向上策 等



# 美しい水のための専門家同士の交流

## [西安市水環境整備事業]

6月5日～6月20日、「西安市水環境整備事業第三期研修」を実施、25名が参加。昨年度実施の第一期、第二期は管理者クラス対象であったが、今回は実務者対象の技術研修。

参加者は浄水場や下水処理場等現場の技術者の方々との交流を通じて様々な知識を得るとともに、友好都市である京都に対する理解を深めた。

本年3月の現地出張の際、現地側より提出された研修に対する様々な希望を、京都市上下水道局・京都市総務局国際化推進室の皆様のご尽力によりすべてアレンジしたこともあり、カリキュラム内容は、前二回に比べ更に充実し、専門的に深められたものとなった。

### ■研修内容は仕事に直結

#### 帰国後の成果に期待

専門的な研修となるため、全員が受講する研修と、専門別の研修を分ける必要があり、西安側と相談して事前に参加者25名を4つのグループ（上水道、下水道、企画・計画、管理）に分け、京都における研修のうち5日間を全体研修、3日間をグループ別の専門研修とした。京都市上下水道局・国際化推進室・都市計画局・建設局の皆様のご協力により、4グループともに大変密度の濃い研修を受講できたと心からの感謝の言葉が寄せられた。

研修の中では、京都市職員の方々との交流、京都観光、嵐山での日本旅館宿泊、

富士山見学などを通じて、日本や京都に対する理解を深められた。東京では、国際協力銀行を表敬訪問し、団長が財務責任者であることから円借款のしくみについて詳細な説明をいただき、大変よく理解できたと感謝された。

さらに、日水コンにおいて水資源の富栄養化対策や河川水汚染対策についての専門的な講義をいただき、研修をしめくくった。

今回の研修内容は、参加者の仕事に直結しているため、皆さん非常に積極的で熱心に受講された。関係各位のご協力に感謝するとともに、帰国後日本で学んだ成果を活用されることを願う。

—国際交流部 主事 酒井 明子

### 西安市水環境整備事業 第三期下水技術研修

◎実施期間 2007.6.5～20  
◎研修参加者 関係部局の実務責任者等25名  
◎関係機関 京都市、国際協力銀行、西安市発展  
和改革委員会

お世話になった方々、企業・団体他（講義・訪問順・敬称略）  
京都市、島津製作所、京都大学津野教授、国際協力  
銀行、有明水再生センター、東京都水運用センター、  
水質センター、日水コン



送別会…美しい友情をいつまでも



研修に参加した吳さんが、京都市と西安市の友好を漢詩にしてくださいました。

### 「京都 長安(西安の昔の名前)」

京華両地同

都城集友朋

長天碧水遠

安尽兄弟情

訳）両都市は同様に都であり  
その都に友人が集う  
天長く碧い水が流れる  
いかに兄弟の情を尽くそうか



吳 德昌 氏

上水道グループ グループ長  
西安市自来水総公司経理弁公室 主任

講義と視察の組み合わせは効率的で、講師の皆様も真剣で真面目だった。専門分野を越える質問でも、何でも回答していただいた。日本で学んだことを今後更に消化し、中国の実際の中に生かしたい。



吉祥院水環境  
保全センターにて  
処理施設を  
見学。



王 亮 氏

管理グループ グループ長  
西安高新区市政配套服務センター 部長

研修は内容が豊富でよくまとまっていた。短い時間であったが、多方面にわたる先進技術や管理技術、理念を学ぶことができ、視野を広げられた。研修担当者、講師は、今回の研修を重視している姿勢が感じられ感動した。今後より協力関係を深めていきたい。



京北地域の  
下水道整備状況  
を見学。



## 「多様」な情報が集合、互いに学ぶ集団研修 [中小企業政策セミナー]

12カ国12名の研修参加者が集まり、「中小企業政策セミナー」が実施された。本研修は、JICAから委託されたもので、5月30日から6月26日の約1ヶ月開催されたものである。

バラエティーに富む国からの参加者を対象に、主に、経営・技術支援、金融支援の2つの内容に重点をおいた研修が実施された。

### ■集団研修で高い効果をあげるには

ウズベキスタン、エルサルバドル、カンボジア、ガーナ、クロアチア、サウジアラビア、中国、チリ、パキスタン、メキシコ、モルドバ、モンゴル。

さて、この国の共通点はなんでしょう？とでもいいたくなるほど多彩な国からの研修参加者を迎える「中小企業政策セミナー」は



3つの小グループに分かれ、自国の企業を発展させるために出来ることをディスカッション。他国の政策からもヒントを得ながら、議論を深めた。



グループ討論の結果をパワーポイントにまとめて発表する参加者。みんな熱心に取り組んだ。

開催された。ここまで国が違うと、社会状況や、国の制度、考え方も違ってくるだろう。セミナーで高い効果をあげるには、できるだけニーズ、背景、レベルのそろったチームのほうが内容も絞りやすい。こんなチーム編成で研修の効果はどうやって出そう？という疑問がわいてくる....。

しかし！別の角度から見れば、国は違えどもみな企業振興に携わる、いわば同業者の集まりでもある。沢山の違った国から人が来るということは、沢山の違った情報も集まることでは？こう考えて、セミナーの内容を「日本で知識・情報を得られる」ものにすると同時に「チームの中での互いの学び」も大きな目標とした。コースを通じ



研修終了日。満足そうな表情の研修参加者ら。アジア、アフリカ、欧州、南米、中東等世界各国から中小企業関係者が集まり、お互いの国の情報を交換した。



修了書を受け取るチリの研修参加者。

何度も意見交換・グループディスカッションの機会を設けた。最初はお互いに「理解不能...」な状況もあったようだが、ディスカッション、課外での交流、移動しながらのおしゃべりの中で少しづつお互いの理解を深めていった研修参加者ら。最初はこんなに「ばらばらの国」でチーム編成して大丈夫なのか？と思った。

が、「ばらばら」なのではない。「多様な情報の集合体が中小企業政策セミナーの特徴であり、強みなのだ！

—国際交流部 主任 関野 史湖

### 中小企業政策セミナー

◎実施期間 2007.5/30～6/26

◎研修参加者 中小企業振興に関する業務に従事している政府職員12名

◎委託元機関 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)  
大阪国際センター

◎内 容 (1)研修参加国の中小企業問題：  
シチュエーションレポート発表  
(2)日本の中小企業政策・施策  
(講義・見学・討議)  
・中小企業政策の変遷  
・経営・技術支援  
・金融支援  
・最新の中小企業政策—創業支援  
(3)まとめ：アクションプラン作成・発表

### お世話になった方々、企業・団体他

(講義・訪問順・敬称略)

兵庫県立大学 佐竹教授、阪南大学 関専任講師、松下電器歴史館、流通科学大学 高田教授、大阪商工会議所、スリービース、大阪市立工業研究所、奥野製薬工業、扇町インキュベーションプラザ(メビック扇町)、キネトスコープ社、DRIVE、ランデザイン、龍谷大学 松岡教授、大阪信用金庫、中小企業基盤整備機構、中小企業大学校東京校、慶應藤沢イノベーションビル、東京都中小企業振興公社、国民生活金融公庫、東京中小企業投資育成、東京信用保証協会、ひょうご産業活性化センター

## (有)スリーピース

<http://www.3-p.co.jp>

同社は設立して3年という若い会社で、先端のLED照明を使い照明器具の販売や制御システムの構築で業績を伸ばしている。

設計・生産等にあたる他の4社とネットワークを組み、日本はもとよりアジアへもビジネスを広げようとしている。

研修では前田博史社長の熱い思いを込めた講演に、それぞれの国で創業を支援する役目を担う研修員には大いに参考になったようだ。



「今後はLEDの先端分野でオリジナル商品を作っていく」と語る前田社長を囲んで



# AOTSの進める国際交流

財団法人 海外技術者研修協会(AOTS)  
理事(関西研修センター担当・館長兼務) 吉原 秀男 氏

## PREXとAOTSの共通点

AOTSは、PREXと共に事業と社会的使命を持ち、常々ベンチマークして学びたいと思っている。特に、ODA事業、日本政府機関・経済産業界との公民連携(PPP)協力、また「日本技術の開発途上国移転、途上国の産業人材育成への貢献、同窓会のネットワーク推進」という事業ミッションも共通している。さらに元研修生同窓会は、事業ニーズや評価の発信源であり、現地ネットワークの拠点としての役割など、互いに学びたいと思っている。

## AOTS関西研修センターでの国際交流

AOTS関西研修センターは、300人の宿舎を持ち、年間1,300人ぐらいの研修生をお世話している。センターは研修生の「学び・生活・交流の場」であるが、交流行事として、小中学校等との教育交流、地元との食文化交流や日本語ボランティア等、草の根的人的交流を続けている。ホームステイやビジットで、日本人の生の暮らしに触れ、規律や勤勉などを実際に学んだと言う研修生も多い。

時に日本企業・日本人の国際化に協力する意味で、日本人にも利用いただく。ただ語学講習は受けても、実際外国人と交われない現実。そして数カ月前「日本人が騒がしく、集まって飲酒し、下着で廊下を歩いている」などの知らせを受け、『交流要領』を作った。AOTS事業や研修生の状況、宗教と生活のかかわり、イスラム律法に則ったハラール食品への理解、

エスニック料理試食等を案内している。一部「辛口の日本人批判」を引用すると、「…日本人は、特に集団の酒マナーが悪く、一気飲みを強い、限度を超えて飲む、酔えば態度が大きくなる。時にコミュニケーション(飲んで仲良くなる)を研修生に勧めるが、節度ある意思疎通をお願いしたい。宗教などで飲酒しない人とは、お茶での交流=ティートークを推奨」。その後、体育館で球技交流などが見られるようになったのは喜ばしい。

## AOTS同窓会のネットワーク

AOTS同窓会は、この研修センターでの生活や研修経験が基になり、現在43カ国70地域に組織され、ホームステイ交流、管理研修参加者募集協力や同窓会間技術交流等を自主的に実施してくれている(詳細はAOTSホームページ参照)。昨年私は、ペナン同窓会35周年記念会、シンガポール同窓会幹部と広州南海区訪問、ムンバイでの世界代表者会議などに参加した。バンコクを拠点にアジア諸国を平均月3回訪問していた過去3年間、どこでも元研修生が、政府や企業の幹部になっていて色々助けていただいた。

タイでは昨年同窓会が設立40周年を迎えたこともあり、高齢化しつつある同窓生の若い世代への引き継ぎ、ネットワーク維持・活性化などを課題に一緒に合宿し、記念行事を企画した。現地・日系企業幹部への「ものづくりセミナー」開催と日・タイ対訳付の教材配布、記念誌発行、500人参加の記念パーティに近隣同窓会も参加するなどのお手伝いをした。

PREXの海外研修の約半数は、AOTSの制度を活用して実施するものです。2007年度は、ベトナム、マレーシア、メキシコ、中国(ラサ、西寧)、フィリピンでの研修を予定しています。吉原理事には、「AOTSとPREXは共通の事業と社会的使命を持つ。お互いに学びたい」とメッセージをいただきました。

AOTS ホームページアドレス : <http://www.aots.or.jp/index.html>



## ◎ 2007年度 第1回臨時理事会終了

7月27日に臨時理事会を開催し、評議員選任案、顧問委嘱案の審議、決定を行った。(以下詳細、敬称略)

## ■ 評議員

新任：井上裕生 西日本電信電話(株) 取締役副社長  
退任：結城淳一 西日本電信電話(株) 前取締役副社長

## ■ 顧問

新任：金子和夫 (財)海外技術者研修協会 理事長  
退任：小川修司 (財)海外技術者研修協会 前理事長

## 9月実施の主な研修

## ■ 日系人研修「貿易・マーケティング」

◎期 間：8/21～11/28

◎対象者：貿易・マーケティングに携わる日系ブラジル人 1名  
◎委託元機関：独立行政法人 国際協力機構(JICA)

## ■ キルギス日本センター ビジネス実務研修

◎期 間：8/28～9/14

◎対象者：キルギス日本センタービジネスコース受講者 3名  
◎委託元機関：独立行政法人 国際協力機構(JICA)

## ■ 中国海外研修：中小企業経営戦略 ラサ、西寧

◎期 間：9/4～12

◎対象者：中小企業経営戦略関係者 50名、80名  
◎関係機関：海外技術者研修協会、現地生産力促進センター

## MESSAGE

本紙1頁で報告した「アセアン海外研修」のマレーシア現地の研修協力先であるマレーシア商工会議所(NCCIM)事務局長ウォン氏から、研修を終えてのメッセージをいただいた。NCCIMには、研修参加者の募集、会場の手配、テキストの印刷手配等々研修の準備をいただいた。

## アセアン海外研修「TQMセミナー」の現地の反応

マレーシア商工会議所 事務局長 クム・シン・ウォン

今回の研修は、参加者からの反応が非常によく、「TQMについて深い気付きを得ることができた」、「TQMの促進に向けて、何が必要かを知る機会であった」との感想が寄せられた。TQMの促進とは、明確な目的に向かっていく終わりのない旅であると思う。

また、セミナーの中で行われたグループディスカッション、特に「KJ法」について学び、体験できたことも、非常に印象深かったようだ。

参加者からは、「TQMセミナーをクアラルンプールでもっと行ってほしい」という要望が強まっている。

AOTS、関経連、PREXのサポートに、また、狩野博士、中村博士には、講義・ディスカッションを通じて、TQMに関する経験と知識を分け与えていただいたことに、深く感謝申し上げる。

## C O L U M N

## 活気あふれる上海の街

国際交流部 担当部長 福島 稔史

6月4日午前10時、関西空港から飛びたって、約2時間で上海浦東空港へ。1時間の時差があるので、11時すぎには到着してしまった。気候も日本とそれほど変わらないし、あまり外国に来た感じがない。初めての海外出張で、改めて中国はお隣の国であることを実感した。これから出張の予定をこなして、翌日の夕方には帰国という、一泊二日の慌しい日程である。

短い滞在時間だったが、2010年に開催される上海万博を控えて、活況を呈している上海経済の一端を垣間見たような気がする。それは市内の至るところで行われている古い建物の取り壊しや、近代的な高層ビル建設などの工事現場である。昔からの古い町並みが、突然近代的な都市に変貌する。これらの工事は、万博開催時にはすべて完成するらしいので、ここ数年で上海の景色もずいぶん変わらんだろう。先入観もあるかもしれないが、成長を続ける都市の活力みたいなものを感じた。

また、上海は歴史を感じることができる街でもある。明代に建設された中国古典庭園の豫園には、狭い空間で芸術品のような細かい細工がされた建築物が見られるし、外灘では、重厚な石造りの建築物が多く残っており、ライトアップされた外観は荘厳であるらしい。実はこれは見てきたわけなく旅行社からもらった「るるぶ上海」の情報。今回の出張では、残念ながらこのガイドブックの出番は、ほとんどなかった。今度は、プライベートで出かけて、違った上海を見てみたいと思う。



あわただしい出張の合間に撮影した1枚の上海の街。

PREXの  
研修実績

PREXは、1990年4月設立以降、開発途上国の  
人材育成事業と、  
その活動を通しての  
国際的人材交流促進に  
努めています。

2007年  
7月末現在

## ●研修累計(1990～)

349コース

## ●受講者累計(1990～)

112カ国・地域 10,699名

【受入(訪日)研修 3,251名 /  
海外研修 7,448名】

## ●研修参加者による同窓会メンバー累計

13同窓会／1,811名

現在、シンガポール、マレーシア、インドネシア、  
フィリピン、タイ、ベトナム、中国、重慶市、  
中央アジア(5カ国)、モンゴル、メキシコ、  
ミャンマー、ラオスに設立済。